

## 令和4年度三島市歯科口腔保健推進会議 会議録

日時	2022年9月29日(木) 13:30～15:10
場所	三島市保健センター東館1階
配布資料	<p>【事前送付資料】</p> <p>会議次第 資料1「第2次三島市健康づくり計画令和4年度実施計画について」 第2次静岡県歯科保健計画(改訂版)指標進捗状況一覧 委員名簿</p> <p>【当日配布】</p> <p>席次表 冊子「第2次三島市健康づくり計画」 資料2「市の主な歯科口腔保健事業について」 資料3「かかりつけ歯科医の推進について」 チラシ「大人のむし歯調査の結果報告」 中学3年生のむし歯の状況</p>

### 1 委嘱状交付

4名に交付(欠席者1名には後日郵送)

### 2 市長挨拶

- ・本日はお忙しい中、三島市歯科口腔保健推進会議に出席いただき感謝。
- ・「三島市歯科口腔保健計画」は、「第2次三島市健康づくり計画」に包含する形で今年度から新たにスタートした。
- ・ご存知のとおり、歯や口腔内の健康は、健康的な食生活、免疫力の維持向上、生活習慣病予防など、全身の健康や疾病予防と関係が深く、健やかな心身の保持・増進に大きく影響する。
- ・新型コロナの感染でマスク生活が長引いているが、会話の減少、口腔内の乾燥、在宅勤務などによる食生活の乱れなど、歯科口腔保健を取り巻く環境はここ数年で大きく変化し、むし歯の増加や歯周病の重症化が懸念されている。
- ・ここ数年、新型コロナの感染拡大により、歯科口腔保健に関する様々な事業が、中断や縮小を余儀なくされてきたが、本市では、感染リスクに配慮しながら、徐々に事業を再開している。
- ・また、来月29日には、市民文化会館大ホールにおきまして、第26回市民講座を三島市医師会、三島市歯科医師会の全面的な協力のもと開催いたしますが、「知ってるようで知らない歯の話」と題しまして「歯科とカラダ」についてのご講演も頂く予定でおりますので、委員の皆様もぜひご参加いただければ幸いです。
- ・さて、本日は、オーラルフレイル対策を重点プロジェクトとした本市の主な歯科口腔保健事業などについて、また、「かかりつけ歯科医の推進について」議題とさせていただきます。委員の皆様方には、それぞれの専門的見地から、忌憚のないご意見・ご提言をお願いします。

### 3 会長挨拶

三島市歯科口腔保健計画は、三島が県で一番に行われているにもかかわらず、データ等を見ると決して効果が発揮できていないと思っている。我々自身もいろいろ方策は立てているが、関係している人よりも、いろんな立場の方からご意見をいただいて、要は市民の歯のレベルを上げていくように皆さんと相談して、歯科医師会に持ち帰り市民のためになるように頑張っていきたい。

### 4 議事

#### (1) 第2次三島市健康づくり計画(歯科口腔保健計画)について

#### (2) 第2次三島市健康づくり計画実施計画(令和4年度)について

<事務局より第2次三島市健康づくり計画・資料1について説明>

<質疑>

【A委員】フッ化物塗布・フッ化物洗口は誰に対してやったのか。

⇒【事務局】フッ化物塗布は1歳半、2歳、3歳の子を対象に、フッ化物洗口は市内の希望する幼稚園、保育園で、対象は4歳5歳を対象としている。

【D委員】受診率を上げるために検診車を作れないか。お金はかかるが投資しなければ。言葉では受診につながらない。

⇒【事務局】受診率の問題は、今のところ、こちらから出向いてという話はなく、これから考えていくべき話では

ないかと思っている。

【B委員】 東部健康福祉センターの方で、糖尿病と歯周病は負のスパイラルというリーフレットを作っている。どの方も対応できるようなチェック表になっているので、また、いろんな場面で配付していただきたい。

歯周病検診は非常に受診率が全国的にも低いので、背中を押すような方法、上手く他の事業に合わせてやるような方法も含めて、勧めてはと思う。

⇒【事務局】 今いただいた資料につきましては、いい歯のキャンペーンを今年11月8日前後ですが、頑張ってみようかなというふうに思いますので、あらゆる機会に周知をさせていただきたいと思います。

【D委員】 出前健康講座の参加数、実績値が現状値の1.7倍くらいになっているが概要をお聞かせください。

⇒【事務局】 小学校での健口教室や高齢者等、あらゆる年代のこちらから出向いて行った講座の総計となっている。

【C委員】 40代の歯周炎の割合が改善とはいえ、そもそも母数が余りにも少ない。4.7%の受診率で受診していただいた方というのは意識の高い方なので、果たして63.2%と60%に大きな意味があるのかなとも思う。

検診率をもう少し底上げするような方法を、行政と一緒に考えていきたい。

### (3) 市の主な歯科口腔保健事業について

#### <事務局より資料2について説明>

【B委員】 1.6歳、3歳の障害をお持ちの方への健診の検診受診にも配慮をしていただきたい。

⇒【事務局】 1.6歳、3歳の検診受診率は高く100%に近い値ですので、障がいをお持ちの方も、個別相談という形で歯科衛生士が対応することもできる。ただ、歯科医師が家庭訪問をしての歯科検診は、子どもはやっておらず、高齢者の在宅歯科診療についてはしている。

#### <B委員より「第2次静岡県歯科保健計画（改訂版）指標進捗状況一覧」について説明>

#### <B委員より「中学3年生のむし歯の状況」について説明>

#### <B委員より「大人のむし歯調査の結果報告」について説明>※新潟県弥彦村のフッ化物洗口50年の検証

【A委員】 世界的に見てもフッ素は危険性が強い発癌性があると言われている。厚生省の2002年ぐらいのガイドラインに沿って事業をしているが、それでいいのかと思う。ヨーロッパでも禁止している国も沢山あるし、アメリカのバイデンさんが、今回大分発癌性や免疫力低下があるので規制を強化するっていう話もちょっと聞いている。今は50年でいい結果でもその後どんな病気してくるのかは、これからの話であるので、フッ素洗口は個人が決めることで、全体でやって欲しくない。骨折率の増加、ダウン症、老人性痴呆に関連した論文がでてきている。

【B委員】 フッ化物洗口は50年以上の歴史があり、世界的にはフッリデーションということで、水道水の中のフッ素濃度を調整をして虫歯予防を実施し、問題がないということで継続されている。

日本の中でも、米軍横田基地などでは、水道水のフッ素の濃度を調整しているので虫歯が明らかに少なく、沖縄県でもそのデータが出ており、日本沖縄が返還されて、水道水の調整をやめた途端、沖縄県は非常にむし歯が増えた。学校でやるにしても幼稚園保育園でも、保護者の方に希望を取って実施しており、強制ではない。家庭で虫歯予防に時間もお金もかけられる方は本当に1握りで、幼稚園保育園小中学校等でやれば多くの子どもたちが健康になれる機会を与えているので、行政としては費用対効果が高く、エビデンスもしっかりあるということで、国も日本歯科医師会も三島市の歯科医師会も理解していただいて実施している。骨折などの文献も出ているということだが、どの文献かをまた教えていただければ、こちらも確認をしたい。

【C委員】 歯科医師会の中にも、約80人中5人ぐらいの先生が、やはり反対している先生もおり、データを持ってきて発表がされる方もいるが、現実的にデータの出所がはっきりしない。実施の際は保護者に同意を得ている。

ただ、フッ素をすれば虫歯にならないっていう考え方が一番怖い。フッ素をすれば歯磨きしなくてもいいだろうっていう考え方には反対。あくまでもご本人がそういうデータを、すごく大事にするのであれば拒否する権利はあると考えてください。

【D委員】 保育園幼稚園では保健センターの方と訪問したりしますが、三島市の中学校では何かやっていますか。

⇒【事務局】 中学校の方へのアプローチ手段がない。健口教室の対象を、募集の段階では中学校まで、拡大したが、結果として応募がなかった。

### (4) 意見交換 かかりつけ歯科医の推進について

#### <事務局より資料3について説明>

【E委員】 国民皆歯科健診は進むのか、頓挫したのか。

⇒【C委員】 まだはっきりとはしないが、強力に推進する議員の方が当選されたので現実的になってくると思う。

⇒【E委員】 歯科検診はアプローチをしても、一般の方々、特にある年齢より上の方々には怖いというイメージを持たれており、それは多分払拭できない。いろんなところで、キャンペーンするしかない。全く関心を持たない人たちにどう関心を持ってもらうのかを考えていかないと、受診率は向上しないと思う。

- 【F委員】 かかりつけ薬剤師という言葉がある。皆さんあまり耳に覚えがないかもしれないが、窓口に来てくださる方に対して一生懸命説明します。薬に関してはどこの医療機関とこの処方であっても責任を持って担当します。  
何か困ったことがあったら、24時間いつでも連絡くださいというようなシステム。皆さんご存知ないので一生懸命窓口で説明をしながら初めて成り立つようなものになっている。やはり現場レベルで一对一で話をしながら理解を求めていくと考えています。
- 【G委員】 私事です家族3人で、夫と、私、娘と3人違う歯科医へ行っていますが、娘のところには、定期的に歯医者さんからはがきをいただくが、私等々のところには何も来ません。歯医者先生も、かかりつけ歯科医をアピールされて、はがきを送ってくださるとかすると意識が高くなると思います。
- 【D委員】 自分のことですが、私は沼津に会社勤めなので、沼津市も近いところに3カ月に1回行っております。そういうきっかけとか何かないとなかなか。
- 【H委員】 高齢者世代は、痛くなったらとか症状が出てから始めて通うのであって、かかりつけっていうのは本当に持ってなかったが、たまたま10何年前、インプラントを東京医大で行ったのですが、それをきっかけに半年ごと通っている。結果的にはそれがよかったかなと思いますが、やっぱり何かそういうものがないと、もしくははがきが来るとかかりつけもできるのかなと思います。
- 【I委員】 幼稚園では4歳5歳で、ご希望されるご家庭にはフッ化物洗口をしている。4歳5歳は食後に歯磨きをしているが、歯磨きがコロナ感染のリスクになるということで、2、3年前から園では歯磨きはしていません。3回のうちの1回はしていないということでやっぱり虫歯のリスクっていうのは高いと思う。  
フッ化物洗口を行う時に、保護者の皆様を集め事業説明をしています。希望制ということで、私の園では保健センターから直接お話を伺っているが、その時を利用してかかりつけ歯科医とか、大人になった時のむし歯とか、歯周病が認知症等にも影響するっていうようなお話をすることはできると、お話を聞いて思っていました。
- 【J委員】 説明を聞き、そもそも、かかりつけ歯科医への理解度が低いのではと改めて思った。  
またかかりつけ歯科医というのが、どういうことをしてくれるのか、また、それがどういうふうに関係があるのか、その辺の説明もあればいいんじゃないかなと思います。  
また、歯医者は予約が取りにくく、希望日になかなか行けない。働いている人達は時間がなかなか取れないというミスマッチがあり、行きたくてもいけないという方たちもいるのも確かだと思う。  
それから、歯医者によって手入れの仕方が全然違うと思う。丁寧に綺麗にしてくれる先生もいるし、歯科衛生士が全く普通にやって、最後に先生が診ておしまいという先生もいます。  
やっぱり歯磨きの仕方など基本的なことを教えてもらえるっていうのも一つ大人でも子どもでも大事なんじゃないかなと思う。フッ素を塗るだけでなく歯磨きが基本ということ、その辺の指導が先生からいただけたらありがたいと思う。子どもがむし歯になり、かかりつけの歯医者さんに、時間が思うようにならないっていう中で、小さい子ども連れて行くのに、逆に先生から拒否され他の歯科医院に行ってくださいっていうような、とても残念な結果があった。
- 【K委員】 かかりつけ歯科医というのを推進するのに、選挙も大型商業施設で投票できるようになったみたいに、何か買い物ついでに、そういうキャンペーンを知ることができればよいと思った。歯科衛生のためだけに出かけることはできなくても、日々の日常の何かアクションのついでに何か、チェックができるとか、チェックを受けた人は三島の野菜がプレゼントされるとか、商工観光課や三島市内の商店を巻き込んで、何か、プロジェクトを起こすとかできれば、8020運動とかをもっと推進できるのではないかなと思う。
- 【A委員】 まずは先生の人柄です。口コミだと思う。先生の人柄で、その患者さんが増えることだと思う。ドクターの資質とはそこに尽きると思う。歯科医師によりやり方も統一できていない感じがする。  
口腔内の状態と全身の病気が連動しているのは皆さんご存知だと思う。そういう話も含めて、健康講座なんかにも歯科医師が出向いていかれたらどうかなっていうふう思う。  
フッ素入りの歯磨き粉は6歳未満の子にはよくないので、歯医者さんにも言ってほしいしいが、いかがなものかと思っている。
- 【B委員】 6歳未満が危険というのは、1,450ppmのものが6歳未満のお子さんには濃度が高いので使わないほうがいいですよっていうことは国が言っている。皆さんが普通に購入する1,000ppm以下のものであれば、0歳からでも使える。年齢に合わせ、効果を出すにはある程度の量も必要で、それをしっかり見て使うことが虫歯予防になるので、今90%以上フッ素入りのものが販売されていて、日本だけではなく世界的にもそうです。そこを間違いないように、皆さんにお伝えしたいと思いましたので、よろしくお願いたします。

## 5 その他